



## 6月は「心のきずなを深める月間」

「心のきずなを深める月間」として全市的にいじめをなくす取り組みをすることになっています。昨年度までは「いじめ根絶強化月間」とされていましたが、今年度は、学校・家庭・地域が互いの役割と責任を強く自覚して、日頃からいじめ未然防止の活動を全市的に推進していこうというものです。


市のテーマ「みんなでいじめをなくしていこう～思いやりの心をもって～」のもと、若葉小学校でも、人権学習や道徳の学習の中で、お友達との関り等を見直し、みんなが笑顔になれる学校にするために取り組んでいく予定です。その取り組みの1つとして、6月6日(木)の学校朝会では、以下のような話をしました。

6月は熊本市全体で「心のきずなを深める月間」です。「きずな」とは「人と人とのつながり」です。つまり「心のつながりを深める月間」です。

さて、心は目には見えません。その見えない心をどうすればつなぎ、深めることができるでしょうか。そうです、相手を思いやる温かい言葉や行動で表すのです。今、どんな言葉や行動を思い浮かべたでしょうか。「ありがとう」「ごめんなさい」「いっしょにあそぼう」・・・「けんかしてもなかなかおりする」「友達の気持ちを考える」・・・人と人とのつながりが深まるように、たくさんの温かい言葉や行動が広がる6月であってほしいと思います。

そこで、今日は北原白秋という詩人の詩を紹介します。

ひとつのことばを	ひとつのことばを	やさしいことばは	きれいなことばは	ひとつの心を持っている	ひとつのことばは	ひとつのことばは	ひとつのことばは	ひとつのことばは	ひとつのことばは	ひとつのことばは	ひとつのことばは	ひとつのことば	北原 白秋
美しく	大切に	やさしい心	きれいな心		それぞれに	泣かされる	楽しく笑い	心がいたむ	頭が下がり	なかなかおり	けんかして		



言葉には、とても大きな力があります。一つの言葉で周りにいる人を笑顔にすることもできます。しかし、一つの言葉で相手を怒らせたり、悲しませたりすることもあります。言葉はそれぞれ心を持っているんです。



朝自習に「心のきずなを深める」さいころトークをしている様子(3年生)



一人一人が書いた「これから使いたい言葉」が並んでいます。(3年生)

言葉にはとても大きな力があるからこそ、子どもたちには、温かい心、元気な心になる言葉をたくさんかけたいですね。そうすることで、子どもたちの心に残り、自分自身を元気づけ、周りを大切にする言葉(心)となって広がっていくと思います。

そういう私自身も言葉を大切にしたいと改めて思ったところです。

